

京都府立医科大学医学部医学科の卒業時コンピテンシー

令和7年11月11日 教授会承認
令和8年度より適用

DP1 医学知識と問題対応能力

基本的な医学の知識を習得するとともに、常に問題意識をもって医学を探究する姿勢を有し、症候・疾患・病態を深く理解し幅広く対応できる能力を身につけていること。

- | | |
|---------------|--|
| 1 基礎医学 | 生命現象を自然科学的視点から捉え、人体の構造と機能、疾患の本態に関する基礎医学の知識を修得し、疾患の病因、病態、症候、治療、予防の理解に活用できる。 |
| 2 社会医学 | 疫学、保健・医療制度、公衆衛生、予防医学、法医学、医学哲学などに関する知識を修得し、地域や集団の健康課題や医療における社会的・制度的課題の理解と解決に活用できる。 |
| 3 臨床医学 | 高頻度または重要な疾患について、疫学、病因、病理、病態、症候、検査、診断、治療、予後の知識を修得し、臨床推論に基づく適切な診療に活用できる。
※「臨床推論」とは、「病歴情報と身体所見に基づいて、行うべき検査や治療を決定する（医師臨床研修指導ガイドライン）」こと。 |
| 4 行動科学 | 人の認知、感情、行動に関する知識を修得し、患者や家族の心理社会的背景に配慮した行動変容支援や行動科学に基づく適切な対人対応に活用できる。 |
| 5 批判的評価 | 批判的思考に基づいて、医学情報や新しい知見の信頼性と妥当性を評価し、診療や学修に必要な根拠を判断できる。 |
| 6 患者背景に基づいた医療 | 様々な患者背景を把握し、状況に応じた判断ができる。 |
| 7 根拠に基づいた医療 | 臨床疑問に対してエビデンスを収集・吟味し、根拠に基づいた判断ができる。 |

DP2 診療技能と医の心

基本的な臨床技能を習得するとともに、患者の肉体的な痛みや心の状態に配慮しながら、適切な態度で診療できる能力を身につけていること。さらに地域保健・医療の重要性と地域医療におけるチーム医療の実際を理解し、多職種間連携を通して医療人としての高い意識・使命感を持っていること。

- | | |
|--------|---|
| 1 医療面接 | 基本的な医療面接技法を用い、患者の主訴や訴えの背景を適切に聴き取り、信頼関係を築きながら必要な情報を引き出すことができる。 |
| 2 身体診察 | 基本的な身体診察の手順を理解し、患者の状態に応じて体系的かつ効率的に実施し、所見を正確に解釈して記録できる。 |

3 臨床技能	基本的な臨床手技について、適応、実施方法、合併症等を理解し、適切かつ安全な手順で実施できる。
4 診療録	診療録についての基本的知識を修得し、診療の経過や臨床推論を的確に反映した内容を、体系的かつ簡潔に記載できる。
5 プレゼンテーション	医療チームの意思決定に貢献できるよう、患者の病状や臨床経過、プロブレムリスト、鑑別診断、治療法の要点を整理し、提示できる。
6 救急医療	救急医療の基本的知識と対応体制を理解し、緊急度や重症度を判断した上で、初期対応の実施またはその補助ができる。
7 慢性期医療	慢性疾患の病態や療養生活、支援制度を理解し、指導のもと、症状の管理や治療の継続、生活背景への配慮を含む慢性期医療に参画できる。
8 地域医療	地域の需要と資源にあわせて保健、医療、福祉との連携の中で、医療を行う仕組みを理解し、多職種との協働を説明できる。
9 プライマリ・ケア	疾病・症候の垣根なく、身体的、心理的、社会的側面から健康課題に対応するプライマリ・ケアについて説明できる。
10 診療態度	病に苦しむ患者および家族に寄り添い、その身体的および精神的苦痛や不安に配慮しつつ傾聴し、誠実で共感的な態度で診療を行うことができる。

DP 3 コミュニケーション能力

患者と医師とがお互いに理解し合い問題を共有しながら解決することを目指し、医療内容を分かりやすく説明するなど、患者とその家族との良好な関係を築くことができるコミュニケーション能力を身につけていること。

1 分かりやすい説明	医療内容や患者の状態について、患者の持つ知識や心理状態、文化、社会的背景に応じた分かりやすい説明ができる。
2 意思決定支援	意思決定支援の意義を理解し、対話や記録を通じて患者および家族のニーズに応じた情報提供を行い、価値観や希望を尊重した意思決定を支援できる。
3 情報共有	多職種連携やチーム医療の重要性を理解し、構成員と必要な情報を的確に共有できる。

DP 4 科学的探究心

医学・医療を科学的にとらえることができ、その問題点を見出し解決するための研究の重要性を十分に理解するとともに、将来的に研究倫理をふまえ世界的視野に立った研究を遂行する素養と高い意欲を有していること。

1 リサーチマインド

基礎、臨床、社会医学における研究の意義を理解し、医学や医療の未解決課題に関心を持ち、科学的根拠に基づいて問いを立てて考えることができる。

2 研究の実践

医学研究の方法論と研究倫理の意義を理解し、指導のもと研究を計画および遂行し、データの解析や成果の報告などの研究活動に取り組むことができる。

3 先端情報科学の活用

医療における ICT、AI 等の先端情報科学の活用方法を理解し、診療や学修において応用できる。

DP 5 プロフェッショナリズム

生命及び人間の尊厳を重んじ、豊かな人間性と創造性を培いながら、人の命に深く関わり健康を守るという医師・医学者の職責を十分に自覚し、信頼される安全な医療を実践できる高い倫理観と問題解決能力を有し、チームの中での役割を見出し医療に取り組める能力を身につけていること。

1 倫理性

医師としての職責を自覚し、患者の尊厳と基本的人権を尊重し、医療倫理（生命倫理）の原則に基づくとともに、臨床倫理の方法論を応用して行動できる。

2 医師としての 振る舞い

医師としての社会的役割を自覚し、礼節と品位を保ち、他者からの信頼を得られる振る舞いができる。

3 法令と規範の遵守

医療や医学研究に関連する法令および各種の行動規範を理解し、遵守できる。

4 利益相反

医療や医学研究における利益相反の概念と重要性を理解し、その発生の可能性を認識した上で適切に対処できる。

5 医療安全

医療管理体制やリスク管理の重要性を理解し、電子カルテの適切な記載と情報管理、医療事故の防止、医療関連感染症の予防対策と初期対応を含む、安全な医療を実践できる。

6 自己省察

自己と組織の行動を継続的に評価する視点を持ち、フィードバックを避けず省察し、改善できる。

7 役割遂行

保健、医療、福祉などに関わる多職種の役割を理解し、医療チームの一員として自らの役割を認識し、協働できる。

DP 6 社会における医療の実践

地域社会はもとより、日本の医療のあり方や現状・課題を理解するとともに、これらを実践するための基礎的素養を身につけていること。

- | | |
|----------|--|
| 1 社会保障制度 | 地域や日本全体のニーズを理解し、保健、医療、福祉等の諸制度を理解し、説明できる。 |
| 2 災害医療 | 災害医療の特殊性とそれに関与する支援組織の役割、災害発生時に備え、医師に求められる行動を理解し、説明できる。 |
| 3 保険診療 | 国民皆保険制度と診療報酬の仕組み、ならびに保険外診療の概要とその制度上の位置づけを理解し、説明できる。 |

DP 7 国際的視野

国際社会における医療・健康についてその現状や課題を理解し、将来的に世界的な視野で医学・医療を実践できる能力を身につけていること。

- | | |
|------------|--|
| 1 医学英語 | 医療や医学に関する基本的な英語の語彙と表現を身につけ、英語による医療面接や情報収集ができる。 |
| 2 多文化理解 | 国や文化による医療制度や健康課題の違いを理解し、文化的背景、社会的立場、価値観の異なる患者に対して多様性を尊重し、適切に対応できる。 |
| 3 グローバルヘルス | グローバルヘルスの概念と国際的な医療体制を理解し、世界が抱える健康課題に関心を持ち、その取り組みに関わることができる。 |

DP 8 生涯にわたって学ぶ姿勢

医療の質の向上と医学の進歩のために絶えず省察し、他の医師・医療者・研究者とともに研鑽しながら、生涯にわたって向上を続ける意欲と態度を有していること。

- | | |
|-------------|---|
| 1 生涯学習・自己研鑽 | 医学の進歩に応じて継続的に学び、専門職としての能力を深めることができる。 |
| 2 共同学習・後進育成 | 他者と共に学び合い、その中で得た知識や技能を後進と共有し、互いの成長に貢献できる。 |